

第120回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2019年9月9日(月) 14時～17時

兼題「鶉の贅」

- 川井素山 ○民宿の五右衛門風呂や鉦叩  
海瘦せて小さき秋刀魚の煙沁む  
萩括る作務衣を濡らす昨夜の雨  
誰がために供ふ出生鶉の贅
- 保井寶正 ○墨堤の月見舟追ふ月をみる  
鶉の贅篠つく雨のあわれかな  
秋めくやB鉛筆と俳句帳  
敬老日元気六分の祝ひ金
- 佐久間喬 ○万歳で果てたる蛙鶉の贅  
夏雲にボールの行方大歓声  
赤銅の陽にシルエット鶉の贅  
峯雲や山の峰にもせり上がり
- 丸山酔宵子 ○誰を問ふ東京裁判鶉の贅  
秋刀魚待つ犬吠埼に立つ灯  
噴煙をもろともせぬか雲の峰  
紅に染まる水面にいわし雲
- 吉田啓悟 ○指揮棒の先より秋の広がりぬ  
灯を消すと机に至る盆の月  
一天にさつとひと刷毛秋の雲  
鉄線に今挿されたか鶉の贅
- 青木英林 ○落鮎や籬に捕まり腹見せて  
旧友の集ひ更けゆく良夜かな  
夕日射す枝を選びて鶉の贅  
きつちりと三粒摘んで大根蒔く
- 山本草風 ○兵児帯が少し高めか初浴衣  
帰省子門の前にて少し待つ  
鶉の贅生きる術の証かな  
病癒へ秋気尾の中の欠伸かな

菊地崇之 ○風の盆こころ踊らむ巡り逢  
鶉のにへ我今南無や宙を舞う  
颯風の豊作なれど果 充<sup>み</sup>実<sup>た</sup>し  
すすきの穂 孤<sup>ひっそり</sup>独 風に身を蒔かせ

佐久間たか子 ○動く眼やさされしばかり鶉の贅  
冷汁を啜り息つく残暑かな  
校庭に蜻蛉と共に児らの声  
鶉の贅悲しめば厚き雲来たる

渡辺鯨波 ○余命など知らぬ存ぜぬ鶉の贅  
鶉の贅ソクラテスにはなれません  
かなかなや午後を緩める小津映画  
雲の峰受け取りませんポケットティッシュ

後藤克彦 ○読経に朝から負けじ蟬の声  
白帽子滲み気になる蟬の尿  
ぎこちなや手足遅れの盆踊  
枝の先動かぬ蜘蛛や鶉の贅

永井正孝 ○鉄線花鉄条網の爪隠す  
田草取実習生の背に疲れ  
鶉鳴きてフラッシュバックの宮仕え  
日照り草熱暑の中の花盛り

原 唱如 ○晒されて暮るるがままに鶉の贅  
初めての空へ飛び立ち鬼蜻蜓  
コスモスやパラグライダーテイクオフ  
秋暑し身を弾ませてJ A Z Zの中

青葉ひかる ○白い馬にまたがつてくる秋の風  
鳴く鶉の贅を揺らしていつの間に  
蝉しぐれ境内に立ち遠き日々  
無花果をクリームで包む味の巨匠

次回「萩句会」

日時 2019年10月14日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『良夜』 一句  
当季雑詠 三句